

神奈川県立生命の星・地球博物館

友の会通信

Vol. 14, No.1, 通巻68号 2010.6.15 発行

目次

会長・館長挨拶……………1	情報クリップ……………7
総会報告……………2～3	わたしの選ぶ“この一冊”…8
活動報告……………4～5	行事案内……………9～10
身近な自然シリーズ……………6	

友の会を活用しよう！

会長 鈴木 智明

第14回総会でご承認を頂き、三代目会長に就きました鈴木です。よろしくお願いします。

さて、14年目を迎える友の会ですが、いままで濱田会長、佐藤会長のもと博物館と連携強化を図りながら、さまざまな活動を行ってきました。

友の会の目的は、規約にも書かれている通り、「博物館を広く活用し博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ること」です。

友の会は、会員の皆様に学芸員をはじめとする博物館職員との交流、また友の会会員同士の交流、そして自然との交流、そのような交流の場を作ってきました。

昨年度も、延400名を超す参加の講座実施をはじめ、5回のサロン・ド・小田原の開催、『フィールドワークの達人』の出版（もう読まれました？）などを行ってまいりました。

今年度も昨年同様、数多くの講座を企画するとともに、子どもたちに自然科学について体験を通して広く興味を持ってもらう「よろずスタジオ」など新規の講座も用意しております。

会員の皆様にはこれら講座に参加していただければ幸いですが、それだけでなく、いろいろな企画等をご提案いただき、積極的にこの友の会という交流の場を活用していただければと思います。友の会の講座は大抵が会員の方による企画から生まれたものです。皆さんの自然科学に対する思いと、生命の星・地球博物館という貴重な資産を十二分に活用した自然科学に親しむ場をともに作って行きましょう。

せっかくの機会です。ぜひ、友の会を活用しましょう！



博物館についての最近の話題

館長 斎藤 靖二

年度が新しくなり、学芸員や外来研究員の活動報告が展示されました。夏からの特別展では、日本列島20億年の生い立ちを探るというテーマで、日本列島の、そして関東地方の大地の生い立ちが紹介される予定です。この機会に、岩石や地層や化石に刻み込まれている地球のダイナミックな営みを、ぜひ感じとってください。

報道でご存知のように、独立行政法人化した国の美術館や博物館も「仕分け」の対象となりました。回答の中で「博物館に充分な予算など、あったことなど一度もありません」との本音が語られましたが、それでも節減の波が押し寄せてきています。昨年12月には、I C O M - A S P A C 日本会議（国際博物館会議・アジア太平洋地域連盟）が国立科学博物館で開催されました。そこでは、アジア太平洋地域の地域遺産、ネットワーク構築、倫理規定のための人材開発をセッションテーマとして、24ヶ国の博物館関係者が集まって意見交換がなされました。どこの国も予算や人材に同じ問題を抱えていました。また、本年4月にエジプトで「文化遺産保護と返還の国際協力会議」が開催され、ギリシャ・インド・中国など20数ヶ国が古代文化財の返還希望リストをまとめました。しかし、どんなに立派な展示館ができて、標本を飾って監視していればよいわけではありません。博物館は集客を目的とした観光資源ではなく、本質的に研究機関として機能しているからです。

博物館にとっても難しい時代となりました。これからもご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



■ 総会報告

本年度の総会が2010(平成22)年4月4日(日)、1F西側講義室にて開催されました。出席者48名、委任状200名分です。



10時、佐藤会長 新年度の説明をする新会長 鈴木の挨拶ではじまりました。『フィールドワークの達人』発刊という永年の懸案事項が実現したことが大きな報告事項でした。館から鈴木副館長の御挨拶をいただきました。博物館の状況変化にふれられ、館の入館者・活動が活発になるよう友の会の協力をとのお話がありました。

議事にうつり、議長の飯島さんの進行で事業報告、決算報告、会計監査報告と進み全会一致で承認されました。次に役員選出で、佐藤会長が退任し顧問に就任。新会長に鈴木さん、副会長に関口さん、飯島さんは今年度の幹事を選出しました。前幹事の土屋さんが退任されました。新役員紹介、佐藤前会長から退任の言葉、鈴木新会長挨拶があり、平成22年度事業計画、予算の承認で議事は、滞りなく終了しました。

この後『フィールドワークの達人』出版の経緯と裏話を、大島学芸員、高桑学芸員、友の会星野さんから伺いました。また、植物グループの赤堀さんより岩戸山植物調査の報告が、友の会植物グループの活動実績として紹介されました。会場内にはこの調査で集められた標本や活動の様子を紹介するパネルが並べられ、例年とは異なった総会の会場には、熱い雰囲気が感じられました。

これにて総会は終了し、午後から恒例になった博物館周辺の観察イベントが開催されました。今年は3コースで石垣山一夜城コース15名、長興山動物コース9名、長興山植物コース14名で観察会を実施しました。

観察会終了後に風祭のえらんごっそに集まり懇親会を行いました。総数42名の参加で、博物館スタッフ(職員)と友の会会員との楽しい交流会となりました。この1年、皆様と友の会の活動を企画・推進そして楽しく交流していきましょう。御



植物グループによる
岩戸山調査報告展示

協力、ご参加、よろしくお願いします。(臼井英夫)

■ 総会イベント実施報告

長興山の自然を楽しむ：植物コース

実施日：2010年4月4日(日)

午後／講師：勝山輝男学芸員



ジロボウエンゴサク(ケシ科)

勝山学芸員と共に14名ほどの参加者が長興山の枝垂桜と博物館周辺の植物観察を楽しみました。

出発したとたん博物館の歩道橋横に満開の何本かの桜が目に入りました。花や葉の色が微妙に違い遠目にも違う種類かな？と。早速サクラ類の講義が始まりました。オオシマザクラは花が大きく、白く、萼に鋸歯が目立ち葉は緑色なのに対しヤマザクラは花は薄い紅色、オオシマザクラより小さく萼には鋸歯がなく葉も赤味を帯びるそうです。よく植えられているソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンの雑種で両親の性質を併せ持っており、また、小田原周辺にはオオシマザクラとヤマザクラが自然交配したものも多いそうです。

その後、長興山の裏山方面へ。山道にはスダジイ、シラカシ、クスノキなど常緑樹が多く足元にはシダ類、ホンモンジスゲも見られました。ホンモンジスゲは東京の池上本門寺で初めて採集された事に因む名前、富士川から東の関東地方ではよく見られるスゲだそうです。土手には外来種ながらしっかり日本に根付いているオオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウなどが見られました。

紹太寺の稲葉氏の墓地では小田原の歴史を佐藤前会長はじめ、地元の参加者からお聞きました。少々盛りを過ぎてしまった長興山の枝垂桜を楽しんだ後、最近ではミカンからシキミに植え替えている畑を楽しみながら風祭駅に向かいました。セントウソウの白く可憐な花、ひっそりと咲いていたジロボウ



常緑樹の林を歩く

エンゴサク、ネコノメソウの仲間の中では少々乾燥した所にも生えるヤマネコノメソウ等多くの植物を観察して、和気藹々の雰囲気うちに終了しました。

(小久保恭子)

長興山の自然を楽しむ：動物コース

実施日：2010年4月4日(日)午後

講師：広谷浩子学芸員



大きな洞を持つスダジイの大木アウル。エル（エルク）の産卵が見られます。今年はすでにオタマジャクシが2cmほどの大きさになっていました。

入生田の旧道より山神社の急階段を登る途中で、何やら動物の糞らしきものを発見。境内では広谷さんよりここに住むムササビの話を書きました。



山神社で動物の糞を発見

山道を進み、老人介護施設「長寿園」に出たところで、満開のソメイヨシノの花の蜜を吸いに集まったメジロとヒヨドリを観察。

長興山紹太寺の境内では、リスやネズミによる食痕クルミを拾い集めました。高台には立派な五輪塔がいくつも並び、その中にある春日の局の墓はどれかと捜していると、アナグマの足跡らしきものを発見しました。

大しだれ桜の手前から、大きな洞を持つスダジイの大木アウルに会いに行きました。実に見事な巨木で、樹冠に多くの鳥をとまらせていました。

ここで、ご一緒した高齢の方のお話に感動しました。足が悪く杖を使っただけのご参加でしたが、日頃階段を利用して足腰をきたえているとのこと。静岡県より青春18切符ならぬ青春83切符を使って博物館に通っているとのこと。博物館を愛してやまないその姿勢に深く感動しました。

再び、農道から山道への途中、複数の糞を採集しながら香の花（シキミ）がたくさん育てられている畑を見ながら、入生田に戻ってきました。（飯島俊幸）

石垣山一夜城の自然に親しむ道コース

実施日：2010年4月4日(日)午後

講師：笠間友博学芸員

今にも雨が降りそうな中、12時45分、博物館が命名した「自然に親しむ道」に沿って参加者15名、石垣

山一夜城をめざし出発しました。早速早川の河原に降りて、岩石の観察です。早川は箱根山より流れてくる川なので、河原の石には箱根火山生成の物語がいっぱいつまっているとのこと。笠間さんから様々な石について解説をうけ、参加者からも多くの質問が出て、初めからインタラクティブに楽しみながら学ぶ、友の会ならではのよい雰囲気となりました。

途中、シキミの段々畑の中に板状節理のある巨岩



シキミ畑の中の板状節理の大岩

を観察したり、外輪山の溶岩、白銀山溶岩でできた3トンもある城石垣に使われた岩や立川ローム層を観察しました。ここでも笠間さん

んと参加者の質疑のやり取りがいくつも出ました。

ターンパイクをまたぐ姫の水橋からは箱根の内輪山、外輪山、早川の作った谷、



駒ヶ岳系統の赤い溶岩をレクチャー。丹沢連山が見渡せます。今日は天気が今一つだったので、見晴らしはよくありませんでしたが、これらの地形や地質についてレクチャーがありました。前期中央火口丘の浅間山や鷹ノ巣山と、後期中央火口丘の二子山や駒ヶ岳、神山の溶岩は、粘性については前者が高く、後者が低いとのこと。そうすると教科書的には前者の山容はドーム型となり、後者の山容は平たくなるのだが、現実には逆になっていてこれがまた面白いとの話が印象に残りました。

一夜城天守台では天気はあいにくでも小田原城、湘南海岸、曾我山から大磯丘陵が見渡せました。この眺め、実はプレートの境界が観察できる世界でもまれなビューポイントなのだと笠間さん。足柄平野はフィリピン海プレート、曾我山から大磯丘陵は北米プレートというわけです。今まで何度となくここからの景色を眺めていましたがこんな話を聞くと、宇宙から地球を俯瞰している気分となりました。

天気ははっきりしない中でしたが、笠間さんのお話はとてもわかりやすく明快で、「なるほどそうだったのか」と思わせる内容がいっぱいでした。また、会員の皆さんとのやり取りも絶妙で、参加いただいた皆さんには大変満足いただけたのでは、と思っています。笠間さん、参加された会員の皆さん、ありがとうございました。（関口康弘）

◆ 活 ◆ 動 ◆ 報 ◆ 告 ◆

三浦半島「葉山芝崎」で幻の付加体観察

2010年4月30日(金)／三浦半島 葉山海岸周辺／大人22名／講師：蛭子貞二（友の会）、山下浩之学芸員

春の大潮の時季だけに出現する葉山層の幻の付加体を観察しようという企画です。当初予定の4月17日(土)は天候不良で、予備日の4月30日(金)に実施されました。集合場所の逗子駅からバスに乗り真名瀬で降りると、目の前に青い海が広がり磯の香りがします。トイレを済ませ長靴に履き替え、さっそく岩場に向かいます。講師の蛭子さんから三浦半島の地質概要や付加体の説明を受けました。

葉山層は海に堆積した砂岩、シルト岩、礫岩で、いたるところに断層が見られます。スランプ構造や級化層理を観察した後、断層の前で序列外スラストについて説明があり、最後は鏡摺の不整合を観察して解散となりました。

友の会には入会していましたが、青森に単身赴任していた私は行事に参加できませんでした。昨年の春に無事退職し、このところ3月のサロン・ド・小田原、4月の総会と親睦イベント、今回の巡検と楽しみが続きます。ただ、運動不足の私は蛭子さんの軽やかな動きに付いて行くのが一苦労でした。(藤井正美)



付加体を代表する“覆瓦スラスト(断層)”地形



単なる岩山?…いいえ“序列外スラスト”と言う貴重な地質構造です

◇植物観察会

「里山の春を歩こう」

2010年4月24日(土)／中郡二宮町／34名／講師：勝山輝男学芸員



みずみずしい新緑の道を歩く

団地中央バス停の集合場所へ。全然歩いたことの無い所なので助かりました。

はじめは町の中を歩いていましたが、皆さんお庭の花にも関心を示し、楽しみながら進み、しばらくすると丘陵地です。このところ天気が不順でしたが、今日は気持ちの良い晴の中を逍遙。皆さん熱心で、シダやスゲも観察。勝山先生にナガハグサ、ミゾイチゴツナギ、ホンモンジスゲ等こまかく説明していただくが、私の頭の中には入らない。でも廻りの春の芽出しの気持ち良さになごみながら歩きます。ヒメハギも立ち止まって探すとたくさん咲いている。小さな花なのにとってもきれい！黄色がきれいなトウダイグサが出てきて観察する。一つのかたまりの中にこれから咲く花やすでに蒴果になってゴロンとしているのを細かく見ました。

せせらぎ公園で昼食をとり、公園の中をざっと廻り、さて出発。少し暗い所を歩いたらオドリコソウが咲いていたり、ヒカゲワラビを教わったりしました。忘れないといいのですが。300才になるクヌギがあったり、タブノキやアラカシの芽出しを間近にみたり、遠目に山を眺めて、アラカシ、コナラ、クヌギ等の色が少しずつ違っているのを教えてもらいました。同じ種類でも早く芽が出たのと少し遅かったのでは色が微妙に違います。

ソメイヨシノが終わりウワミズザクラが咲き、今年はお天気が寒かったり暖かかったり、でも草木は負けずに花を咲かせている。

今日は地元をよく歩いている係の方の熱心さがわかるコースで、春を堪能しました。(羽鳥礼子)



これは穂状にさくウワミズザクラ

◇植物グループ主催講座

「木の見かた、楽しみかた」

2010年4月30日(金)／博物館実習実験室／43名／講師：八田洋章 国立科学博物館名誉研究員



ホオノキの冬芽にたたまれていた9組の托葉と葉

先生の本の中で「木に目印をつけ1年を通して観察してみましょう…」のフレーズがとても印象として残っていたのですが、今回の講座でこのような地道な観察こそ木を知る本当の楽しみがあることを改めて知ることができました。

講義前半は先生がこれまで世界中を回られ撮影された貴重な写真を使っての樹形、さらには枝別れの仕方の特徴などについての説明で、私など普段は花とか葉、樹皮でしか観てこなかった木もこんな観察の仕方があるのかと、うなずいてばかりでした。

後半は、実際の木々を使っての勉強です。スタッフの方が苦勞して準備されたのでしょうか、9種類もの木々が各テーブルに用意された時は、さすが植物好きの受講生のみなさんだけあって目が一段と輝き、歓声が沸きあがりました。最初はタブの芽鱗の解剖。

次は松の葉・枝の観察で、松の葉の基に非常に短い短枝があり松の落葉はその枝から落ちている、つまり「落葉」



ではなく「落枝」各机を廻って説明される八田先生であるとの説明を受け、私にとってはまるで青天の霹靂でした。ウワミズザクラ(満開で感激)を使っては、この枝が何年前の枝かの見分け方。最後はホオノキの花芽の解剖で、外側から托葉と葉身が幾重にも交互に包み重ね合っている構造には感激一杯で、この芽がこれからどのように開いていくのかじっくり観察したい欲望にかられました。ひとつの木を年間を通してしっかり観察することで木が生きているという生命の不思議一杯の発見がたくさんあること、それがまた面白い！と、楽しく説明をして下さった先生のお姿がとても印象的でした。これからMy-Treeを探しに出かけます！(水口敏則)

◇子ども自然科学ひろば「よろずスタジオ」

「葉っぱにお手紙を書こう」

2010年5月9日(日)／博物館東側講義室／27名／講師：友の会「よろずスタジオ」スタッフ



手作りポスター

第1回目の「よろずスタジオ」は「お母さんにお手紙を書こう!」という呼びかけにしました。呼びかけに応じてお母さん、お父さんを含めて30名ほどの参加者がありました。タラヨウという木の葉っぱにお手紙を書き、はさみやのりを使って自

分で作った封筒にはアカメガシワのスタンプを押しました。好きな絵を描く男の子や細かい字で長いお手紙を書く女の子などそれぞれです。ワリバシで描いた絵や字はすぐにははっきり出てきませんが、しだいにくっきりと浮かび上がってくると不思議な顔をし、そしてうれしそうな顔になりました。出来上がったお手紙をその場でお母さんに手渡しする子、お母さんからお手紙をもらう子とみな楽しそうでした。このタラヨウは神奈川県には自生がありませんが、お寺の庭などに植えられていることがあり、また、「ハガキノキ」ということで郵便局でもシンボルとして植栽されているところがあるようです。スタンプにしたアカメガシワの葉や、グミ、ムラサキシキブ、サンショウの葉などを実体顕微鏡で見ました。1番の人気は赤い毛がいっぱい見えたアカメガシワでした。

お父さんと一緒にお手紙作り



顕微鏡で葉っぱを観察

博物館周辺の身近な自然シリーズ (その23)

はじめまして！

友の会会員のみなさんはじめまして。新任学芸員(植物)の大西 亘(おおにし わたる)です。私と生命の星・地球博物館との出会いは、中学校の遠足で訪れたことにさかのぼります。隕石や岩石、剥製や板根に触れ、巨大なメインホールを見上げて興奮したことを覚えています。あれから15年、まさか自分がここで働くことになるとは！ 学芸員の仕事は様々でわからないことだらけですが、先輩学芸員や友の会のみなさんにあたたかい声をかけていただきながら、毎日楽しく仕事をしています。博物館で見かけたらぜひ声をかけてくださいね！

さて、実はこのコラム、タイトル通り「博物館周辺の身近な自然」との内容で引き受けたのですが、よく考えると、入生田の右も左もわからぬ新人には難しい注文です。ましてや私は3月までの10年間で九州で過ごしてきたので、神奈川県はこんなふうだったっけ？ と日々思い出しながらキョロキョロしているありさまで。仕方がないので(ゴメンナサイ)、私が入生田に通いながら、気になっていることについてお届けします。

◎山の色に移り変わり

毎日博物館に通勤してくると、歩道橋から前庭のあたりで周囲の山をぐるりと見回します。今年は運良く4月になってもソメイヨシノの花が残っていました。道路わきにソメイヨシノが咲いている頃は、山にはまだ新芽が芽吹いている木は少なく、落葉樹の多くは葉を落したままの姿。でも、冬芽は日々膨らんでいるので、葉のない木にもなんとなく暖かさが感じられます。

ソメイヨシノが散った4月下旬ごろになると、新芽が出てきました。山はまぶしいばかりの新緑、「山笑う」とはまさにこの時期でしょう。ただ、新緑と言っても山は黄緑一色ではありません。赤・白・黄色、黄緑も薄いものから濃いものまで。樹木の種類によってずいぶんと色が違うのです。様々な色の正体は、開いてきた新しい葉ばかりではありません。花だったり、冬芽を覆っていたカバーに当たる部分だったり、紅葉した古い葉だったり。慣れてくるとパッと見てもその山にどんな木があるかわかりそうです。

5月の連休を過ぎて1週間もたつと、新緑は落ちて緑色が多くなってきました。初夏の青々とした景色の一步手前でしょうか。あちこちで青紫色のフジ(ノダフジ)の花が咲いています。早川沿いの斜面にはミズキやホオノキの白い花が目立ちます。山の上のほうを見上げると、平地では半月前に咲いていたキリが今ごろ花をつけています。

わずかひと月半ですが、山の色はずいぶん変わりました。これから夏、秋と移り変わる山がどんな色になるか、今から楽しみです。山の色に移り変わりをみてきてわかったことがもう一つあります。博物館に面した北側の斜面と南側の斜面で山の色が違うということです。おそらく、生えている樹木の種類の違いがあるのだろーと思っていますが、どうなのでしょう。本当に樹木の種類が違うのかどうか、それぞれの林の中に行って調べてみたいと考えています。



◎“カン”で生き物は見つかるか？

ところで、野外で植物を調査しているとき、「あ、この感じは〇〇がありそうだな！」と思って行ってみると、案の定、お目当てのものがみつかることがあります。みなさんもそのような経験をされたことはありますか？

これはきっと、そうした生き物が、それぞれの種に適した環境のもとに生育しているからだろー、と私は考えています。特に植物では、明るい林の下とか、湿った沢筋とか、周囲の環境との結びつきが強いように感じます。これには一度根を張ると動くことが難しいという植物ならではの“事情”に関係がありそうです。このような環境との結びつきが強いという、植物の性質を逆に利用すると、植物に適した環境を探して、お目当ての植物を見つけることができそうです。また、植物を探す場合だけでなく、動物を探す場合にもこの方法は応用できないかなあ、と思っています。例えば、特定の植物を餌にする昆虫を見つきたい時には、まず餌となる植物を探す方法がよく行われます。一步進んで、環境—植物—昆

虫の結びつきを応用すると、特定の環境を見つけ出すことで、お目当ての虫にたどり着けたり…しないでしょうか？

◎砂浜にもイロイロある？



砂丘がある「砂浜」(高知県)

他にも生き物を探していて気がついたことがあります。ここ何年か、私は海岸の砂浜に生える、ある植物を日本中で探していました。初めのうちは各地の博物館に収蔵されている標本を見て、その採集場所を控え、現地に出かけて探していました。過去に生育していた場所を探す、という方法です。工事などで生育地そのものが失われていなければ、多くの場合再発見することができました。ただし、この方法は博物館などに記録がない地域では使えません。

そこで過去の記録がない場所では、片っ端から砂浜を巡ってみることにしました。〇〇海水浴場という場所や、地形図や航空写真で砂浜と思われるところに足を運びました。ところが、それらしき海岸をめぐっても、なかなかお目当ての植物が見つかりません。そもそも「砂浜」が見つからないのです。私が、「海水浴場」＝「砂浜」だと思いこんでいたのが主な原因ですが、行ってみると玉砂利が広がったような浜だったり、ゴロゴロした丸石が転がる浜だったり。確かに海水浴には砂利や丸石でもあまり違いはないかもしれませんが、見た目も遠目には「砂浜」のようにも見えます。けれども、砂利や丸石の浜は限られた植物しか生育しておらず、水はけが良すぎたり、波当たりが強すぎて、植物にとっては「砂浜」とは明らかに異なる環境のようでした。

そんな中から、「砂浜」を探り当てて巡ったところ、さらに、お目当ての植物は、砂浜と言ってもどこの砂浜にもあるわけではないことがわかってきました。どうやらお目当ての植物が生えている砂浜は、すくうとサラサラと流れるような細かい砂粒で、砂でできた丘、砂丘があるような砂浜であることが多いようです。こうしてみると、海岸の中でも「砂浜」

は独特な環境であり、「砂浜」にも、植物にとっては微妙な違いがあるのかもしれません。

◎なぜこんなに多様な生き物がいるの？

私の専門分野の「進化生態学」とは、生き物どうしのつながりや生き物と環境とのつながりを、現在の多様な生き物の世界は自然淘汰の結果生じた、との考え方をもとに解き明かそう、というものです。私の場合は特に植物に思い入れがあるので、植物を中心にそうしたことを研究しています。実は、上に書いた三つのことも、こうした研究の“タネ”にならないかなと思っていることです。山の色があんなに様々で、短い間にもどんどん変わっていくのはなぜでしょう？ 住んでいそうな環境を探してお目当ての生き物を見つけるなんて本当に出来るのでしょうか？ 植物にとって砂浜に違いはあるのでしょうか？ 多様な生き物の世界がどうやってできたのか、みなさんも気になるませんか？

<情報クリップ>

●会員数 544名 5月15日現在
(正会員 542名、賛助会員 2名)

●平成22年4月 博物館人事異動

<管理課>

新任：菊池 俊太(新採用)
新任：石原 明子(非常勤事務補助員)
転出：吉川ひとみ
転出：石川 絵美(非常勤事務補助員)

<企画情報部>

転入：押野 裕
転入：中島 勉
新任：片野美知子(業務専門員)
新任：稲葉 榮次(学習指導員)
新任：大坪 奏(非常勤学芸員)
新任：小林 瑞穂(非常勤司書)
転出：笹尾 賢二
転出：中里 義男
退職：宮崎 信恵(前 業務専門員)
退職：佐藤 公司(前 学習指導員)
退職：尾越佐緒里(前 非常勤司書)
異動：山下 浩之(前 学芸部)
異動：荻部 治紀(前 学芸部)

<学芸部>

新任：大西 亘(新採用)
異動：石浜佐栄子(前 企画普及課)

わたしの選ぶ“この一冊”

『漂着物事典 —海からのメッセージ』

石井 忠 著 海鳥社 (1976年発行)

標本士 相川 稔

海のない信州松本の生まれの私にとって、海というものは身近とはおおよそいえない遠い存在でした。海へ行ったのは高校生になるまでに2回だけ、小学校3年の夏に富山で泳いだのと小6の修学旅行で潮干狩りなるものをしたのが、せめてもの体験でした。

高校は埼玉県だったので幾分か海が近くなったと言えなくもないですが、やっぱりそこも海なし県、日常に「海」を感じることはありませんでした。

そんな私を「海」にぐっと身近に引き寄せてくれたのがこの『漂着物事典』です。

生物の授業の中で、海流散布をするモダマの話や実際その先生が見せてくれた海で拾ってきたという雑多な生物系漂着物に感動し、断然海に行こうと決意しました。ちょうど冬だったので「玄界灘でアオイガイを拾えばいい」という先生のアドバイスをそのまま受け入れ『漂着物事典』を携え福岡へ向かいました。

それまでアオイガイを実際に見たことも拾ったこともなかったのですが、砂浜に異質な（自然な？）光を放つ乳白半透明のアオイガイを見つけた時の感動は忘れられません。

また、福岡まで来たついでにと著者の石井先生のお宅へもお邪魔し、当時すでに20数年来という漂着物の膨大な蓄積を見せていただき、圧倒されるとともに海にはかくも様々なものが流れ着くものなのか、と不思議さと今まで知らなかった海のある生活との出会いは衝撃でした。

特に印象的だったのは、弱って波打ち際に寄せられたイカを食べるために、ずっと浜辺でそれを待っている人が普通にいたことです。待っていれば、いずれ食べ物に向うのほうから寄ってくるとは、まるでお伽話かなにかのようですが、これも本来は海辺の日常の風景なのだなと思うと、今までの自分が慣れ親しんできた日常風景との違い、というか海の豊かさというものを改めて感じました。

以来学校の休みのたびにあちこちの海岸へ出かけ

ました。あちこちへ出かけた、と言ってもそんなにお金の余裕があるわけでもないのに、自身の移動はもっぱらヒッチハイクに頼っていました。なにもそこまでしなくても、と思われるかも知れませんが、出発に先だって、万が一持って帰れない程たくさん、もしくは大きなものを見つけたらどうしようと楽しく妄想していると、次第にそのために宅配便を浮かせなきゃ、では交通費は削減だ、つまりヒッチハイクだとなってしまったわけです。

しかし、そんな皮算用も北海道行きでは段ボール十箱程、五島でも60cm 近くあるゴンドウイルカ(?)の頭骨数個とその背骨獲得という形でのちました。小さいつづらでは満足しない強欲婆さんの気持ちがよくわかります。

もともとそんな経費削減のためにはじめたヒッチハイクも、それはそれで一回の旅行で入れかわりたちかわりいろんな人と出会えたので、それ自体とても楽しい充実した思い出です。ただ、当時骨格標本づくりに凝っていた私が海で拾うのは勿論骨や死骸ばかりで、中には生腐れの死骸も少なくなく、しかもその間お風呂に入るわけでもなく、親切心から車に乗せてくれた人にも「なんかこの子くさいなあ」と乗せたことを後悔されていたかもしれません。

本に書かれているように漂着物には生物系のもの以外にも一般にはガラクタと呼ばれるものもたくさんあります。私は拾いすぎたらキリがないと、それ程多くは拾いませんでしたが、結果的には結構な量になってしまいました。しかし、それぞれのなんてことのないガラクタにも多くの人の手を経てきた歴史があると思うと「椰子の実」にもあるようなロマンを感じます。そういえば島崎藤村も信州の人、想うところは同じなんですね。

高校卒業後は一時松本へ帰り、そのあと海の遠いドイツへ留学したので、海岸へ出て何かを拾う機会はほぼ全くなくなってしまいましたが、何かの折に海が見える所へ行くと「なにかある」予感と不思議な高揚感を感じます。こんなにわくわくなくなかると感じるのは漂着物だけでなくそこに住むひとの生活や文化なのかもしれません。

ドイツから帰国して、さてどうやって博物館とつながってゆこうかと思案しているときに地球博物館から短期間ではありますが標本作製の仕事を頂きました。日本では「標本士」という職業が存在しないため地球博物館で仕事をしている間にもう少し標本士というものの認知度を上げられたら、と思っています。

行事案内

◆「土の中の虫ウォッチング」

～見つけた虫の写真を撮ろう～

土の中にも虫はいっぱいいるよ。

どんな虫がいるのかな？

土の中の虫を探して顕微鏡で観察しよう！

日 時：7月10日(土) 10:00～15:30

場 所：博物館周辺および3階実習実験室

講 師：小作明則先生 獨協医科大学

対 象：小中学生とその保護者／25名(抽選)／
オープン

参加費：500円／人

締切り：7月2日(金)必着

連絡先：矢野 5 8

◆ 西丹沢山北町「湯本平」

河内川流域で砂金パanning

西丹沢山北町湯本平の河内川流域で砂金やガーネット、オリビン、磁鉄鉱等の岩鉱物をパanningします。

当地の上流には過去に金鉱山が有った歴史もあり、期待の持てる所です。

本講座は2009年夏に計画し、天候不良で中止となった行事の再挑戦です。

日 時：7月24日(土) 10:00～16:00

場 所：西丹沢山北町 河内川流域「湯本平」周辺

講 師：蛭子貞二(友の会)・山下浩之 学芸員

集合場所・時間：JR御殿場線「谷峨駅」

改札出口 午前10:00

⇒集合後「湯本平」までバス乗車

対 象：子どもから大人まで／40名(抽選)

参加費：150円／人

注 意：パン皿を持っていない方には博物館および友の会保有のお皿を貸出ししますが、多数の場合は共用となります。申し込みハガキに「借用」「持参」の別を必ず書いて下さい。

締切り：7月13日(火)必着

連絡先：中村(良) 4 4

◆ 夏休み昆虫探検隊

山梨県南巨摩郡身延町周辺で民宿・バスを借り切って合宿を行います。昆虫の生息環境・採集方法を学びます。詳しくは同封チラシをご覧ください。

日 時：7月31日(土)8:00～8月1日(日)18:00

場 所：山梨県南巨摩郡身延町・他

講 師：荻部治紀学芸員・高桑正敏学芸員

集 合：小田急線 開成駅西口ロータリー

対 象：小学生以上の会員／15名(抽選)

参加費：20,000円程度(参加人数による)

締切り：7月10日(土)必着

連絡先：渡邊 4

特 記：参加費にはバス代、宿泊費(1泊3食)等が含まれます。

◆ 子ども自然科学ひろば「いろいろ体験」

実習実験室内でいろいろな体験講座を行います。

当日希望の講座にご参加ください。

・「プランクトン観察」

小田部家邦プランクトン先生の指導で観察します。家の近くの池や小川の水を採ってきて観察しよう。

・「変形菌てなかに？」

いろいろな変形菌を顕微鏡で観察。標本を作ったり、おみやげを作ります。

★他にも面白い講座を企画中です。お楽しみに。

日 時：8月1日(日)

10:00～12:00、13:00～15:00

1講座1時間で各4回予定

場 所：博物館3階実習実験室

対 象：子どもとその保護者／オープン

参加費：1講座300円～500円／人

申込方法：当日、3階実習実験室内受付で行います。
(事前申込み無し)

◆ 子ども自然科学ひろば「テフラ洗い」

箱根火山のテフラ(火山灰)を洗い、顕微鏡で含有鉱物等を観察・分類します。その後分類した鉱物ごとの「テフラ実物標本」を作製します。

日 時：8月11日(水) 10:00～12:00

『テフラ洗いと含有鉱物の顕微観察、および「テフラ実物標本」の作製』

場 所：博物館3階実習実験室

講 師：笠間友博 学芸員

対 象：子どもとその保護者／20組(40名程度)(抽選)

参加費：150円／人

締切り：7月27日(火)必着

連絡先：中村(良) 4 4

※13:00～15:00のオープン行事『テフラ洗い体験(午前講座の簡略版:申込み不要)』に合流可

◆ 子ども自然科学ひろば「植物おもしろ発見講座」

～やさしい・くだものたね図鑑を作ろう～

日 時：8月27日(金) 13:00～15:00

場 所：博物館3階実習実験室

対 象：子ども(小学生未満は保護者同伴)オープン

参加費：300円／人

締切り：8月8日(日)

*詳しくは同封のチラシを見てね!!

連絡先：佐々木 0

◆ 子ども自然科学ひろば 「よろずスタジオ」

子ども達のための新しい友の会月例企画「よろずスタジオ」が始まりました。第1回の5月13日の企画「葉っぱにお手紙をかこう」は30名ほどの参加を得て、賑いました。今回も楽しい企画です。対象は幼稚園生～小学校低学年を考えていますが、高学年や付き添いの保護者の方にも十分楽しんでいただける内容です。どうぞ、ご近所のお子さん、お孫さんなどお知り合いに「よろずスタジオ」の存在をお知らせください。

◎なお続いて新企画とスタッフを募集しています。

どなたでも興味のある方、一度ご連絡ください。

開催日：9月12日(日) 菌類分野

10月10日(日) 地学分野

11月14日(日) 動物分野

時 間：13：00～15：00

場 所：博物館1階講義室

対 象：子ども(当日の来館者) オープン

参加費：無料

申込み：当日(事前申込み無し)

連絡先：赤堀 8

◆ 植物観察会「秋草ウォッチング」

=湯坂路を歩いて「わたしの秋の七草」を探して=

日 時：9月29日(水) 8：15～15：00頃

場 所：箱根・湯坂路(雨天中止)

講 師：勝山輝男 学芸員

集 合：箱根登山鉄道 箱根湯本駅改札口

対 象：大人20名(抽選)

参加費：1,100円位／人(往路タクシー代を含む)

締切り：9月15日(水)必着

連絡先：金子 4

特 記：詳細は返信葉書にて案内します。

◆ 第92回 サロン・ド・小田原

「動物標本の文化史」

【演 者】 相川 稔 氏

【日 時】 8月7日(土) 受付16：20～

◆ 第93回 サロン・ド・小田原

「特別展紹介ー日本列島20億年 タイムトラベル」

【演 者】 平田大二 学芸員

【日 時】 10月9日(土) 受付16：20～

※以下第92回、第93回とも共通です。

【場 所】 博物館1階西側講義室

【講 演】 17：30～18：30

【交流会】 18：30～20：00(3階レストラン・フォーレ)

【参加費】 講演のみの参加は無料です。

交流会参加費は、大人1000円

【申込み】 講演会は、申込み不要です。

交流会に参加される方はFAXまたはハガキで友の会事務局までお申込みください。

【宛て先】 〒250-0031 小田原市入生田499

生命の星・地球博物館友の会事務局

FAX：0465-23-8846 友の会事務局宛

【問合せ】 田口 tagu@nh.kanagawa-museum.jp

【特 記】 詳細はブログでご案内します。

参加申し込み

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。ファックスや電子メールでは受け付けませんので、ご注意ください。

行事名／開催日／参加者全員の氏名・年令(学年)／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項
ご不明な点は、友の会事務局へお問合せください。

■受付

返信はがきが開催日の1週間前ごろにお手元に届きます。当日ご持参ください。

■あて先

神奈川県立生命の星・地球博物館友の会事務局

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

注意！

★参加費は1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

★オープンの行事は会員外の方も参加できます。

★小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

★チラシの発行されない行事もありますので、直接<連絡先>へお問い合わせください。

★持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

「友の会通信」第69号は、2010年9月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.14, No.1, 通巻68号 2010.6.15発行

編集：友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846